

令和6年度 第5回白井市市民活動推進委員会（全体会）会議録

1. 開催日時 令和7年3月10日（月）午後1時30分～3時30分
2. 開催場所 白井市役所 東庁舎3階 会議室302～304
3. 出席者 関口宏聡委員、出川真也委員、赤間賢二委員、成田秀雄委員、
大田茂子委員、富澤賢司委員、菊池由紀子委員、高城久美子委員、
木下新治委員（名簿順）
4. 欠席者 鈴木清孝委員、近藤健司委員、篠原美保委員
5. 事務局 鈴木市民活動支援課長、石田主査、伊東主事補、
渡辺しろい市民まちづくりサポートセンター長
6. 傍聴者 なし
7. 議事
 - （1）令和7年度白井市市民団体活動支援補助金の募集について[公開]
 - （2）南山小学校区まちづくり協議会の設立について[公開]
 - （3）しろい市民まちづくりサポートセンターの取組状況について[公開]
 - （4）今後の委員会予定について[公開]

8. 会議概要

（1）令和7年度白井市市民団体活動支援補助金の募集について[公開]

（事務局説明）

○委員長 ありがとうございます。おおむね今、御説明いただいたとおり、昨年同様ということです。公募も迫っておりますし、説明会も迫っているので、制度を今さら補助率を変えるというのは厳しいのですが、例えば団体紹介という1ページ目のところとかは、過年度のこの場で、昔はなかったのですよ、これ。いきなり3ページから始まっていたのですが、今回で言うところの具体的にどういう団体が採択されているかも載せたほうが、申請する団体さんにとってもイメージが湧きやすいのではないですかという御意見があったので、入れてもらっているという経緯があります。

例えば、そういった工夫は今からできますので、何か内容に関する御質問ないしは御提案、御意見があれば承りたいと思います。

どうぞ。

○●●委員 3番の申請できる団体で、⑥宗教活動または政治・選挙運動を目的としていないこと。それから4の対象になる事業の※印、公益活動とはというところで、不特定かつ多数の市民の利益の増進に寄与することを目的として、自主的かつ自発的に行う活動とございますが、多分、以前質問があったと思うのですが、例えば柏市のホームページを見ますと、公益活動とは、非営利かつ自主的な活動で、不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与することを目的とする活動のことです。

この政治、宗教のところは、政治、宗教、営利を目的としていないということで、非営利という言葉が入っているのですね。これが入っていないということは、営利であってもよろしいですよという理解でよろしいでしょうか。

○事務局 基本的には、営利ないし営利目的の事業については、対象外とさせていただいております。ただ、非営利という文言が入っていないことにより、申請する団体さんが混乱してしまう可能性もあると思います。先ほどおっしゃっていただいた非営利の部分を追加したほうがよろしいかと思しますので、そこを修正させていただく方向でよろしいでしょうか。

○委員長 自明ということでやっていましたけれども、もちろん事実上求められているのは書いたほうが分かりやすいと思いますので、そういうふうにしていただければと思います。

ほかはいかがでしょうか。

では、私のほうから気づいた点を何点か。まず1ページ目、表紙なのですが、問い合わせ先・申請書類提出先というところに、メールアドレスを入れてもいいかなと思いました。

あと、1ページ目の桜の会さんの写真は、入るということでいいのですよね。

○事務局 桜の会さんに連絡頂いているのですけれども、基本的に行っている事業が、子供たちが主役の地域活動ということで、子供たちが映っている写真がほとんどで、こういったところに子供たちの顔の写真を載せるのはどうなのかなと御相談をいただいておりますが、載せないということはしない方向でいます。

○委員長 チラシとかでもいいのです。下の未来につなぐ会さんもチラシとかなので。レイアウトが狂ってきってしまうので。

○事務局 ないと寂しいので、メンバーの集合写真とか、先ほどおっしゃっていただいたチラシとかがあれば、そちらを提供していただいて載せようかと思っています。

○委員長 お願いします。

最後9ページの公開プレゼンテーションなのですが、これは今日の最後にある日程調整を経て、日程は書き込めるということでもいいのですか。

○事務局 はい。

○委員長 では、今日お出ましいただくというのと、白井市さんの場合は足切りがないので、全団体に公開プレゼンテーションを義務づけているという関係上、貴重なお時間を頂くわけなので、お勤めの方は有給とかを取っていただかなければいけないので、日程が定まったら必ず入れておいてください。

私のほうからは以上ですが、皆さん、ほかにいかがですか。

どうぞ。

○●●委員 3ページ目の活動発展型、補助率の上限と書いてあるのですが、1回目

80%、2回目と3回目が50%の補助率ということなのですが、私市民委員からの所見で申し上げますと、団体さんが補助終了後の報告会の場で、これからどうしていこうかというような団体さんがいらっしゃいましたので、ここは対象経費の80%、50%と言われても、補助対象外のレシート・領収書とか当てはまらないものも多数あったりして、当初実績報告書で出してきたものと違ってきたりするものもあるとは思っています。

つまり、80%の補助を受けて、2回目と3回目も50%を受けて、4回目はなくゼロです、自分たちでこれからも発展してくださいと、制度の目的からは当然ですが、この3年間で本会計だけ膨らんでしまってハシゴを外されたというような団体の発言はあまりいただけない。ここの御説明を行政が重点的にしていただくということを是非お願いしたいと思います。

言い方はともかくボランティアの集まりで、現役リタイアした素人の一般市民ですから、補助ありきということではないですが、そもそも活動発展型なので、3回目終了で事業がしぼむのではなく、さらに次はこうしていくようなイメージを最初に一緒に考え、フォローしつつ、補助終了後の事業発展を見据えられるよう3年の間に案内し、補助終了後は場合によっては市役所内の関係部署・各課に繋げて、願わくば福祉であれば市の事業に繋げる、NPO法人化して介護等認定事業所になる、清掃や活動系ボランティアであれば公園や土木の業務委託に繋げるなど、同じく団体のNPO法人化の手伝いも視野にいただければと思います。市民活動団体の発展型なのでこのような法人化に限らず発展をしていく例は制度の目的からして望ましい。今はその点が抜けているというか、団体の「自主性」に期待し過ぎている、または制度が手薄なのかもしれません。いずれにせよこの補助をうけてより地域課題を解決する、そのなかからNPO法人化して非営利の事業を続けるというのが最も理想的です。

補助を受け続けて今までのような事業は続けられないという団体は見たくないです。

補助によりホップステップジャンプから団体の活動を発展するというのが制度の狙いなら尚更です。

以上、私、市民委員のこの制度に対する理解として「意見」と「お願い」を述べさせていただきました。

○事務局 ありがとうございます。その点、以前の会議でも御指摘いただいていたかと思います。3月21日の説明会のときには、現状2団体が来るということでお話をさせていただいておりますが、その団体はもう今、補助を取ることがどちらかという目的になってしまっているという御意見がありましたので、私たちも、ここで4回目以降のことも考えて補助を受ける心づもりでいてくださいというようなことは強調して、説明会のほうは開催したいと思っています。

○委員長 一応確認ですけれども、対象外となる事業の6ページ目のところです。国や県、市などから他の補助金等の財政的支援を受けている、または受ける予定の事業とい

うのは、逆に読むと、これらの主体でなければ、つまり50%補助ということは、50%自己資金を持ってこななければいけないわけですが、残りの50%については、いわゆる民間の助成金とかを充ててもオーケーということでよろしいですか。

○事務局 その辺を後から実はそうでしたよと言うのではなくて、事前に言っていて、この委員会で、そういう事情で、半分はほかの外部から補助金が出ている。

たしかグリーンレンジャーさんのアダプトプログラムとかがそれに類するものなのかと思いますが、そこでは足りないので、この市民団体活動支援補助金の助成を受けたいのだみたいなことで、委員の皆様にご了解いただいた上で受けていただくというのは、過去にも実績がございます。

それは今、委員長がおっしゃっていただいたような同じ補助を受けて利益を得るといえるか、結果プラスになるみたいなものと、こちらは認められないと考えております。足りない分を補填するという形では、認めているような状況です。

○委員長 何分の1補助ずつ足せば100になるという話なのでね。ありがとうございます。

ほかはいかがですか。

どうぞ。

○●●委員 これの申請書類に変更はないのですよね。前回のままということでしょうか。

○事務局 そうです。

○委員長 何かありますか、そこ。

○●●委員 いつも数字が見つらいと思っていたので。

○委員長 細かいところで直せるものは直していただいといるところになります。

ほかはいかがですか。

はい。

○●●委員 委員長から話のあった件に関連しますが、他市の市民活動団体の中には、市の補助を受けながらクラウドファンディングを受けている市民活動団体がございます。昨年の今の時期に県庁でそのような団体を取り上げられていました。

そうすると、先ほどのアダプト、民間の補助金は大丈夫だということですが、今「クラウドファンディング」というものが、民間の投資の枠を超えて、市民活動にも浸透してきているのを目にしています。例として桜の時期にイベントとして河川のライトアップの団体など、私も目にすることが多くなってきたので、この補助金との兼ね合いというのもリターンの観点から本会計の収支で想定しておいたほうがいいのかと思います。

○事務局 承知しました。クラウドファンディングと話がずれてしましますが、この補助金を受けているグリーンレンジャーさんは、前の皆様も御見学いただいたように、結

構活動にお金がかかるというようなことで、この補助金だけではなく、そこからの伴走支援なんていうのも、以前、委員の皆様から御指摘をいただいていたところなので、補助金をまちサポ経由で提案を受けて申請を出し、補助金を得たという実績はありますので、クラウドファンディングでの補助とアンテナみたいなものも、これから、まちサポと連携して、張っていければと思います。

○委員長 一応確認ですけれども、自己資金分を要は対象外にある事業というところに書かれているのは、つまり基本的な補助金、例えば定期的なのが白井市の補助金で、白井市の補助金を既にもらっているのに、そこの事業に重複してやるというのは、二重補助みたいになってしまうので、やめてよねというお話であって、例えば今、●●委員がおっしゃった2、3年目の50%補助。つまり2分の1しか補助金が出ないということは、残りの半額、自己資金を何とか持ってこないといけない。その手法については、団体の創意工夫に任されていて、別に会費や寄附金、参加費とか、あるいはクラファンで集めてもいいし、民間の助成金を持ってきてもいいし、借入金を起こしてもいいしと、極端な話ですよ。というようなことは、これまでもある程度認めてきているということです。そこは団体さんが自己資金分をどう賄うかというところは、まちサポさんでも、先ほどお話が出ましたけれども、参考としてあげてほしいなと思います。

ということで、ほかはいかがですか。

どうぞ。

○●●委員 5ページについてです。補助対象となる経費。私が未熟なのかもしれませんが、分からないところです。消耗品費、原材料費の1点1万円未満のもの、なぜ1万円未満なのか。あとは一番下、備品購入費、これは1点1万円以上のもの、なぜ1万円以上なのかということをお願いします。

○委員長 というところで、幾らに設定するかは、各いろいろな設定方法があると思いますがいかがでしょう。

○事務局 お答えをさせていただきます。シンプルに要綱をそのまま転記しているような形です。要綱上そうしているからという、ただそれだけです。

ですから、ここを変えらるとなると、逆に言うと、要綱を変えなければいけない、そのような形になります。

○委員長 大丈夫ですか。税法とかだと10万円以上とかですが。

ほかはいかがですか。大丈夫ですか。

そうしましたら、御指摘のあった点を直せるところは修正していただいて、この募集要項案のほうは、それをもって確定としてください。

(2) 南山小学校区まちづくり協議会の設立について[公開]

(事務局説明)

○委員長 ありがとうございます。それでは、報告について、特に若者の参画についてというところで、御意見、御提案いただければと思います。いかがでしょうか。

どうぞ。

○●●委員 ただいまお話の中で、私どもまちづくり協議会の活動は3年目になりますけれども、若い人が一番難しいですね。何かというと、PTAさんもなかなか活動が本格的に動いていないというのがありまして、父兄の方々も、PTAをやめたいというようなところも結構出てきています。

こういうことから、本当に根本的なもの、子供たちを守るとか、朝の見守りなんかもやっています。それもPTAが交替でやっていますが、それもやりたくないからPTAに入らないとかという話も出てきます。やらない人が増えています。ここら辺の自分の子供たちというのを、この子供たちを見守っていこうという人の気持ちが薄れてきたのかなと私は気がします。

私どもは、昔から地域のお父さん、お母さんに見守られてきた傾向がありますけれども、その辺が薄いなという印象です。僕らとしては、本来は自治会をもうちょっと活発にすることが大事だなと思いますが、なかなか自治会も会員になりたくないという状況も今ありますし、昨日も自治会の会合の中で話が出たのが、自治会をやめたいということだったりします。

そういう中で、まちづくり協議会の活動をしています、何か事業を少しでもやってあげて、子供たちを巻き込んだ、遊びにしても何にしても、そういうウェイトを多くしてあげた中で、それに携わる父兄も含め、それから地域の方々も含めた形の中から、その活動をしてくれる人たちが集まったときに、若い人でも、知らない人でも、できるだけ声をかけるようにはしているのです。声をかけて、一本釣りじゃないですけども、役員をどんどん拾っていくようにしています。

少し前にコロナがありましたので、祭りごとがかなり少なくなってしまったことから、人材が少なくなったことは間違いない、参加する人も少なくなったことは間違いないのです。

それも含めて、そういう形で、できるだけ子供たちに直接ではないですが、種まきと同じように、子供たちの思いを胸に、地域の方の思いを、祭りごとにしても、やってあげるというものをつくっていることをやっています。

あと、中学生の子たちを必ず活動の中に入れるように、依頼をかけてお願いをしています。うちのほうでは●●中学なのですが、そこへお願いして、スタッフ、ボランティアのほうをお願いしたりしています。ですから、なかなかどうやったらいいのかというのはないのですが、ただ、今現在、模索中です。

○委員長 ありがとうございます。ほかはいかがでしょう。若者から離れていただいても大丈夫です。

どうぞ。

○●●委員 事実関係の質問になりますが、この小学校区単位のまちづくり協議会ということで、小学校側にはコミュニティスクールの生徒が入っているのでしょうか。

○事務局 お答えします。今、市内の小中学校は、先行して令和6年度に桜台、令和7年度から全小中学校ということで、実はコミュニティスクールの委員を●●さんになっていただいたりとか、そういう感じです。

あとは、先ほど手を挙げていただいた●●委員も、コミュニティスクールの評議委員を担っていただくというような状況だということです。

○●●委員 関連しての質問ですが、白井高校もコミュニティスクール導入校でしたね。

○事務局 白井高校は県立高校ですが、コミュニティスクールを導入しておりまして、そこでの委員は、主にはOBの方であったり、学識の方であったり、あとは私も実は地域の交流担当みたいな形で仰せつкаっているような状況です。

○●●委員 それを確認した上で、いわゆる「若者」というのが、どのぐらいの年齢層になるのかということも関係しますが、小学校、中学校の親御さんぐらいまでがおそらく白井市では若者の部類に入ってくると想定しますと、学校側からのアプローチというのも、「若者」を取り込むうえで、すごく有効だと思うのです。教育部署からのアプローチが重要ではないかということですね。

コミュニティスクールからアプローチすると、地域と連携して、ともに子供たちを育てていく、教育していくという、そういう論理となってきます。学校の先生方をはじめとして、地域に参画していくという、そういう趣旨となりますので、ぜひ学校、教育関係の予算なんかも投入して取り組んでいくという、そういう仕組みも含め、行政内でも、より一層、教育セクションとも連携してやっていただけるといいのではないかと思います。

おそらく地域学校教育の地域コーディネーターといった人材配置も、できるのではないかなと思いますので、人材を取り込むうえでも有効だと考えます。

○事務局 配置できる人数になっているのですが、今の市の教育委員会の話を聞くと、まずは会議体制を整えてというような状況かと思います。

○●●委員 さっき若者のお話があったのですが、こちらの協議会側では、ぜひ市民活動側においては、人材がすごく育ち始めています。特に、地域に根差した知恵や技術を持たれている方が育ち始めていますから、ぜひ早期にそういった地域コーディネーターといいますか、地域学校の連携のコーディネーターをきちんと予算立てして、国からの補助金にもあったかと思いますが、配置して動けるようにされるといいかなと思います。

もしかすると、教育委員会側では把握していないのかもしれないのですが、こちらの

部署でいろいろと話をしていると、地域側の熱い思いを持った方々は育っていて、可視化もされているので、有効な連携ができると思うのです。

もう一つ、社会教育士という国の称号制度が始まって、実はこの称号を持たれている方が、市内に結構いらっしゃるのではないかというふうに思います。ぜひ、そういった地域の人材育成や学習・教育実践に長けた方を掘り起こしていただいて、どんどん投入していくと有効かと思います。こういう取組の成功の鍵は、やはりそういった個々の地域スキルを持った方をつないでいくというコーディネートとかファシリテートとか、そういったところが大事になってくるかと思うのです。つなぐ人材の配置が重要です。そういった人材をぜひ活用できるような仕組みをこちらからも教育セクションと連携して提案していくと、自ずと親御さん世代というか、それから子供たちの先輩になる大学生世代を引いてくる要素になるかなと思っています。

あと、昨年すごくよかったのは、ボランティア体験でしたかね。ああいった取組を同時並行で、今お話ししたような教育分野との連携で進めていくということも有効じゃないかなと思いました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。ほかいかがですか。

どうぞ。

○●●委員 PTAとはほかに、おやじの会とか、あとイクメンとか、そういうお父さんたちが中心になっている活動があったと思うのです。清水口小学校とかは、割とおやじの会が盛んなのかなというふうに思っています。

子供たちが喜ぶような水鉄砲で遊ぶ水鉄砲大会みたいなのも、広く、清水口小学校地区だけじゃなくて、池小とか南山小学校とかにも広げて活動をされていたみたいです。割とお父さんたちが子供たちのためにというような熱い気持ちを持っている方が多いのかなというふうに思ったので、そういうところに声をかけるのも一つかなと思います。

あとは、サッカーとか、野球とか、小学校のクラブチームみたいなものがあるじゃないですか。そういうところでコーチをやっているお父さんたちも、ボランティア精神が旺盛な方が多いと思うので、そういうところからつながっていったらどうかなというふうに思いました。

○委員長 ありがとうございます。何かありますか。

○事務局 ありがとうございました。おやじの会さんには、実はお声がけをさせていただいて、清水口のまちづくり協議会準備会に御参加をいただいております。

サッカーですとかそういったスポーツ、球技のコーチというアプローチは、今までそういった発想がなかったので、どういうふうにアプローチしていったらいいのかという面もありますが、参考にさせていただければというふうに思います。

○委員長 ありがとうございます。ほかいかがですか。

○●●委員 まちづくり協議会さんのほう、私も少し市と関わりながら、どうやってこれから特に地区社会福祉協議会と連携していくかという話を進めさせていただいております。

先ほどから協議会と、私の中では地区社会福祉協議会もあって、ちょっと混乱するなというのがありますが、地区社会福祉協議会は、住民主体で30年以上にわたって地域活動を行っています。今日も地区社会福祉協議会の関係者の方が何名かいらっしゃいます。

世代間を超えた地域づくりということで、赤ちゃんから高齢者まで、特に最近は高齢化に基づいて、高齢化が進んで、高齢者の方というイメージが強い社会福祉協議会なのですが、当然サマースクールによる高校生、地域では食事会で子供さんと呼んだりとか、または、保育園に訪問して、保育園の赤ちゃんたちと一緒に活動をしたりとか、様々な活動を進めていく中で、担い手としての推進は、やはり高齢化が進んでいるという、まさしく若い人を取り込んでいかなきゃいけないという状況を迎えているのは、切実なところだと思います。

それでも一部の地区社会福祉協議会の中では、行事ごとにスポットで若いお母さんたちに協力してもらいながら、スポットの推進員を増やししながら、いずれその方が地区社協の活動に理解いただいて、メンバーが少しずつとどまりつつある地区もあるということです。若い人を取り込むことは、少し時間がかかることだなというのを感じながらも、少しずつ地区社協の中では、その芽も出てきているなという感じもしています。

なので、何々を皆さん協力してくださいという働きかけではなくて、例えば、こういう行事をやるから皆さん協力していただける方がいますかという、求めるものをはっきりすると、若い方々や、または高校生とか、そういった方たちも理解しやすいのかなと思っております。社会福祉協議会が十分そういった方を取り込んでいないというのを承知の上で、少し参考になるかなと思ひまして発言させていただきました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。いかがですか。

どうぞ。

○●●委員 事務局とお聞きしながら話したいと思います。本市の自治会の加入率は、およそどの程度なのですか。

○事務局 6割切っている感じです。10年前ぐらいは、多分7割でしたので、どんどん右肩下がりという感じです。

○●●委員 それだけ加入していれば、本市は一見地域はある程度、協議会の下地としては結束しているというふうに感じます。またマンション等の自治会は市には届出していないのも加味するともう少し上振れするのもしれません。ただ実態としては、私が若いときに貸家を借りていた時を例に挙げますと、漠然と付き合いで加入しているだけとか、ゴミステーションのためとか、真の住民自治とは違う実態が見えてくるものがある。

校区のような狭い範囲で協議会をつくるとなると誰一人も取り残さないという覚悟もいる。災害に強い白井市は平和でそれが更なる自治会加入率に繋がらないのであれば6割から先を目指すのは行政として大変だと思います。住民自ら加入率を高めようとする仕掛けが必要と感じます。

さきほどPTAのお話もありましたけれども、他市町村だと、PTAが破綻して民間に業務委託し始めているところもあります。「まちづくり協議会」というのは、多分、全国見渡しても、すごくうまくいっているのはどれだけあるのかと疑問は残ります。行政がいくらシンポジウム含め啓発しても地域には響かない場合もある。義務的経費や重点事業ではないから予算もまともにつかない。市の地域特性も農家、開発済市街地、新市街地と本市はデータセンターを置くような強固な地盤があり、まちづくり協議会先進市の香取市と比べるととても災害に強いが、一部そうでない地域もある。つまり、住民が危機感を持って優先順位を高める地域とそうでない地域もある。自治会の加入率とそこに住む住民のニーズと危機感なくしては、いかに行政が取り組んでも押し付けになってしまわないか。真に取り組むためには「核」となる人材育成が地域に必要と感じます。

そこで人材発掘の話ですが、事務局にお聞きしますが「まちづくり協議会」の枠組とは、おおよそどれぐらいの校区とか、例えば中学校区とか教えてください。

○事務局 小学校ですね。市内だと9小学校があるので、9協議会をつくっていくというところなのですけども、今現在は4つ設立済みで、5つ目に取り組んでいるというような状況です。

○●●委員 分かりました。

手元の協議会のチラシの写真にも載っていますが、ご高齢の方が多くですね。

市としては、これから徐々に人材発掘をしていきたいということですが、今のバトンタッチの手法だと協議会の先の絵が私には全く描けない。

昨年実施した「しろいワカモノ×まちづくり作戦会議」ですが、私も過去に人材発掘で苦労した身から意見を述べると、「しろいワカモノ×まちづくり作戦会議」は、県内外でも画期的な報告事例だと印象を受けました。

例えばこのような例を応用して考えると、白井高校の市内在住者がどのくらいいるのか分からないですが、そこがベースになってくる可能性があると思います。人材発掘が望めないとする人材育成の観点から、今すぐではないが10年単位で将来災害になったとしても住民自治での結束力に期待ができると思います。これは仮定の話なので社会人になっても市内に定住の前提ですが。

ここで例えば中学校区であったとしたら、中学校と白井高校が連携してみると大学、その先社会人まで描ける可能性はあるのかもしれない。

「しろいワカモノ×まちづくり作戦会議」では高校生とそれを見守る「保護者」の関係があった。私も子を持つ親としては、子供が体育祭、文化祭、ボランティアとか何で

もいいですが、保護者としては、子供を見守り、我が子が活躍し社会に貢献する姿をぜひとも見たい。その中で、保護者自身も手を出していく場面があったとしたら、それは自然だと思います。

だから今、自治会の中でバトンタッチだとかいっても、なかなか次の世代は定年延長とかあって、市民活動団体も同じことが言えるのではないかと思います。もちろん第一次ベビーブーム世代で作られた市民活動団体は、一定数淘汰されるものもあるとは思いますが。

つまり本当はバトンタッチを受けたくても受けられない環境なのです。「俺」がやったから「お前」もやれではなくて、やれない状況がある。

そうすると、今、定年延長云々という中で、さらに輪をかけてPTAに入ってくれというのなかなか難しくなっている先ほどの問題が発生する。白井でも保護者の役職は義務になっている。

次に、今度は小中高と市内に通っている生徒の中で、小学校から中学校のお兄さん、中学校から高校のお兄さんとか、そういう中から協働するという形でやると、お兄さんの背中を見ながらというような形で輪も広がるのではないのかな。ここに中高のお子さんを持つ保護者が入ってきて、今までとは違うバトンタッチが繋がることに期待します。

例えば中学校ということであれば、ある程度の年齢で地元で定住している生徒と保護者ですから、地元の高校生の活躍を見てすごくよかったなと繋がると思うのです。

そういう昨年実施した「しろいワカモノ×まちづくり作戦会議」のようなものの中で、高校と中学校と連携を模索してみる。それを見守っている保護者、お父さん、お母さんも一緒に関わってくる。そうすれば、家族、兄弟も一緒に連携できる可能性があるということなのかなと、これが将来のまちづくりの結束力に繋がり、地域のリーダーの人材育成が行え、まちづくり協議会の強い骨格、柱になることを期待します。そのような柱はいくらあっても良い。

繰り返しになりますが、私が今、本市の様々な思考錯誤のなかで感じたのが以上のところで、その先は分かりませんが、昨年、「しろいワカモノ×まちづくり作戦会議」の若者の中で熱く弁を振るう若者を見たときに、輝いている高校生が沢山いたのを見まして安心しました。

行政がいくら啓発し、お金をかけて器だけ作っても協議会が成功するイメージが湧かない。例えば住民から空き店舗でやっているが、逆に行政にスペースや補助してくれと求められるように、行政は上手な「きっかけ」づくりに傾注し、シンポジウムとかにお金をかけず地元の教育・企業等の資源を活かした企画に特化し、中学校のお子さんたちがそのお兄さんたちを見ると、自分もやってみたい、引き継ぎたいというような人材が産まれれば、将来全国的に他に類を見ない地元の核となるリーダーがいる「まち」となり、まちづくり協議会や自治会の強固な結束力・住民自治に発展し、先ほどのチラ

シとは違った多様な世代が混在する風景になっていくのではないのかなと思いました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

○事務局 中学生をという御意見がありましたけれども、実は南山のまちづくり協議会でも、特に防災部会は、災害はいつ起こるか分からない、授業中とかということも十分に考えられる。そういったときには、中学生は必ず地域にいるし、戦力になり得る。だから南山は体制が整ったら、中学校にもそういった面で協力できないかというお願いに行こうかという話は役員の中でされています。今お話を聞いていて、そういうところのアプローチというのは、方向性として違ってないのかなというのが今、再認識できました。

あと若者まちづくり部のつながりという意味で言うと、実は、この清水口に入っていた大学生のおひとりが若者まちづくり部にも、NPO体験会にも参加をしています。そういった意識が高いから、参加しているというはあるかと思いますが、一応まちの取組にも参加して、このまちづくり協議会にも御参加をいただいているという状況なので、まちサポとの連携もしっかり取りながら、そういった方々のリクルートは引き続き進めていきたいと思う次第です。

○委員長 ありがとうございます。ほかの方いかがですか。

どうぞ。

○●●委員 先日、社会福祉協議会との会議や生涯学習推進委員会に出たときにも同じような、困ったねと。あんまり人、若くないよねというところが出ているのです。

その中で、今お伝えした若者というところがどの年代を指すのか分からないということなのですが、本当にPTAに当たる方々は、やっと子供が学校に行って、手を離れて、仕事ができるところなので、なかなかこういったところに参加は難しいだろうなとは思っています。戦力になるのであれば、そこを狙いたいのは分かるのですが、多分そんなすぐには若者と言われるものは集まらないと思うのです。

各センターでやっているいろいろなイベントだったり、事業だったりのところで、子供たちがボランティアで参加することって結構あるのです。その中でもボランティア証明証みたいなものをお出しすると、とても喜んでくださって、参加していただいたり、そういうことをやっているよというのを学校にお知らせすると、校長先生が見に来てくれたりとかして、そういうところがいいなと思っています。小学校、中学校辺りに種をまいて育てていくのが、長期間ではありますが、いいのかなという気がしなくもありません。

さっきおっしゃっていたサッカーチームのパパとかは、子供たちが卒業すると、そのパパたちは、どれだけ一生懸命やっても手が離れるのです。そういう人たちが本当におすすめだと思います。

桜台に来るサッカーチームがありますが、そこで頑張っているパパも、もう今年で終わりなんだよとおっしゃっていましたから、そういう人たちをピンポイントで当たってもいいのかなという気もしなくもないのです。

昔々だったら、子ども会とかがあって、知らない間にジュニアリーダーが育っていたのだらうなと思いますが、今そういう取組もありませんし、市民大学も高齢者向けの事業がとても多く、いきなり若者向けの30代を目指した学科をつくっても来ないよというのは、しょうがないよねと思うのです。

そういうところで小学校、中学校の子供たち向けの何かやっていって、高齢者向けの大学ではなくて、一般的な大学というか、小中学生でも参加できる大学があって、ここでやられている市民活動をされている団体さんの、それこそいろいろなところに行って、何しているのみたいなのを参加から始まってもいいだろうし、時間はかかるのはしょうがないかなと思いつつ、そんな感じです。終わりです。

○委員長 ありがとうございます。ほかはいかがですか。よろしいですか。

○事務局 すみません、事務局から質問させていただきたいです。ちなみに●●は、学生さんのボランティアが多いという印象を私は以前、見学させていただいたときは思っていて、学生さんというのは、どのようなつながりで参加されているのか、参考に教えていただけるとありがたいです。

○●●委員 ボランティアセンターか、あとは市役所の職員さんのお子さんとか、やはり身近な方々のような気がします。お一人、大学生の子で就職が決まったので、そちらのほうに行かれるので、しばらくお休みされるのかなとは思いますが。

あとは、先ほど●●委員もおっしゃっていましたが、少年野球、サッカー、以前はふるさと祭りで各団体が、いなり寿司とか、おでんとか、豚汁とか、保護者と一緒にコーチ、監督も、みんな一緒に2日間、ふるさと祭りで出店していた思い出もあります。

あとは、赤い羽根募金も、小学生、中学生も暮れに参加しているので、そういう方々、子供たち、かなり学校と連携して赤い羽根募金に参加してくれるので、やはりほかのいろいろなイベントに参加してくれる可能性はあると思います。

○委員長 ほかの方はどうですか。

では私のほうから何点かですが、まず若者の取込みという言葉は、言葉を選ばなければいけないですが、●●さんがお越しになったときに、重要なことを何度も強調されていましたけれども、若干それが薄れつつある気がする所以说っておきますが、若者のやりたいことを応援しているということが、ちゃんと成功している要素なわけです。

ただ単に、これは、それこそ皆さんも分かっているとは思いますが、単に人手が足りないから手伝ってというだけ、単なる労働力として見ていたら、逆に聞きたいが、そういう場に皆さんだったら行きたいですか。そういうことだと思います。

だから、ある程度御事情は私も分かるので、そういうところが足りないということ

おっしゃっていただくのは別に構わないとは思いますが、言われたとおりに、君はこうやって、とにかくそれをやればいいんだということと言われて、高校生なり、大学生なり、若者が楽しいなと思ってやるかといったら、それは労働に近くなってくる。それだったら、普通にバイトで時給を払ってやってもらえばいいということになってしまいます。そこは若者の力を求めるにしても、こちら側が変わらなければいけない。私も自分の団体も含めて、いつも心がけているところです。

例えば若者たちの企画をちゃんと受けて、それに対して何かまち協として、例えばユース部会というのをつくって、そのユース部会にちゃんと予算をつけてあげて、若者として何か企画をしてもらったら、若者とかも呼びやすいと思いますし、それこそ先ほど出てきたように、まちづくり部との連携だとか、白井高校の連携というのも、単に労働力が足りないからというのも、取っ掛かりとしてはありかもしれないですが、そこから発展せずに多分終わっちゃうと思うので、そこを例えば意思決定の場にメンバーとして迎え入れるとか、または会長を高校生がやったっていいじゃないですかぐらいの、極端な例ですが、ユース部会の部会長は白井高校の高校生に任せるとか、そういう意思決定の場にもちゃんと入れてあげないと、それは結局、俺らは結局人手で、手足は動かしているけれども、決めるのは全部あの人たちなのかと思ったら、私だったら行きません。そこは迎え入れる体制づくりも必要なのではないかなと思いました。

もう一つは、自分自身の経験から言うと、私はカブスカウトというのをやっていた経験がありますが、100ある教育団体の一つとして、今、ボーイスカウトとかガールスカウトとかも、そういう団体もありますし、先ほど言ったように、いわゆる様々な文化団体、スポーツ系の団体さんというのもいっぱいいらっしゃるわけです。

輪の中にスポーツのスの字も出てこないの、そういうのを入れてあげると、先ほど言った野球チームとかサッカーチームさんとかも、俺らもちゃんと入っているという参加意識というか、参画意識というのも、この地域の各種団体等に入っているのかもしれませんが、それでいったら、みんな地域の各種団体等ですから。きちんと迎え入れたいのであれば、そういった例えばお名前を出してあげるとか、せめて敬意を払って仲間に引き入れていくということは、大事なのではないかなというふうに思ったところです。

どうぞ。

○●●委員 今お話しいただいた中で、私は今、●●というのを受けて私はやっています。その中で、そういう担当がありますので、その行事の中で、小学校の子供たちとか、地域の子供たちを祭りの事業をやるということについて、実行委員会をつくって、実行委員会の委員として子供たちに企画をさせて、御協力いただくということを年に何回かやっています。その辺もやっていければ面白いと思います。

それからもう一つ、20歳になる子供たちが、20歳の祭りをやる前に大騒ぎしたいのだということで、中学、高校を卒業した20歳になる前の子供たちが、学校単位で毎年スク

ラムを組んでいるのです。皆さん集めて、20歳の前夜祭というやつの舞台を作って、そういう形の活動をやっていた経緯がずっとあります。十何回もやっていましたが、そういう発想が子供たちにあるとうれしいと思っていたのです。今は、そういう子供たちがいなくなってしまったので寂しいのですが。私も第1回目から協力して、企画は皆さん子供たちにやらせたのですけれども、人のサポートとか、いろいろなサポートした経験があります。それぐらいの活気のある子供たちが今いないなと思います。

○委員長 ありがとうございます。ちなみに成人式はまだやっているのですか。

○事務局 やっています。梨光式という名でやり、かつ、まちサポと連携して、フォトスポットを設置して、コーヒーを入れて交流の場というのは、今年の成人の日に行いました。

○委員長 例えば、そういうときの配布資料とかに、まちづくり部の誘いとか、今出てきたようなまち協に参加してみませんかみたいな、ある意味一網打尽にできるチャンスではないですか。成人式に来られている学生さんというか、そういう適齢期の方々に対してアピールできる機会ってなかなかないと思うので、そんな機会をうまく生かしていただきたいなというふうに私も思います。

あと結局、これも会議でワカモノ大作戦が出てきて、まだパッと書かれていないですが、若者たちが溜まる場という言葉が正しいか分からないですが、ユースセンターとか、勉強できる場所が欲しいというのは、どの班でも出ていた意見で、私も未だに覚えています。そういうところがあれば、そこに来ている子たちをヘッドハンティングするというか、声かけするということもできると思います。

さっきの話ではないのですが、相手がギブしているのに、テイク、テイクというのは、それは虫のいい話だと私は思うのです。こちら側も、例えばユースセンターとか、勉強できる場とか、多少、汗をかいてやることは必要でして。それで、白井市で、きちんとああいった場で意見を言えば実現してくれるんだと認識する。そういうことが市民プライドというか、白井市という地元への愛着にもつながってくると思います。せっかく出てきた意見というのを聞き流さないで、1個でも2個でもいいからちゃんと実現していくという姿勢が、ある意味白井市に問われていると思います。若者たちだって馬鹿じゃないので、ちゃんと見ています。そういったことをやってくれる市なのか、そうじゃないのかというところで、今日出てきたような、わざわざ自分の貴重な時間を使って、まち協に参加しようかと思うときの少し関わってくると思うのですよね。

なので、一つ一つの、全国どこでもこれは悩んでいる話なので、どの自治体でも試行錯誤しています。別に私は、白井市の状況が極端に悪いとは全く思いませんが。なので、せっかく芽は出てきているので、先ほど話で言ったようにそれをぜひ育てていただきたいと思います。

(3) しらい市民まちづくりサポートセンターの取組状況について[公開]

(事務局説明)

○委員長 多分、御説明いただいたことでイメージはできたのかなと思いますが、これについては、引き続き、先ほどは小学校区単位での、かなり地域密着での若者参画のお話でした。

これ、3市をくくって何か呼び方はあるのですか。あまりないですか。ではその3市の連携ということで、これをやるということです。これは、やや広域、北総線沿線と言っているのか分かりませんが、そこでの取組について何か御意見、御提案とかがあればということです。皆さん、いかがでしょうか。企画内容に対する質問とかでもいいと思います。あるいは、ちょっと外れてしまいますが、まちサポへの御意見でも。

まずこれ、千葉商科大の学生さんが基本は参加していることが大前提なのですよ、助成金の条件として。

○事務局 そうです。千葉商科大の大学生さんに、このプロジェクトの説明会を開きまして、それで参加者を募集しようというふうに思っております。

○委員長 千葉商科大の学生さんが、それぞれの3市で何か企画を考えて、3市でやるということですよ。

先ほども言いましたが、北総線の沿線だから、それこそ北総鉄道とかを白井市さん経由とかで口説き落として、駅前例えば子供たちと一緒に防災の展示をやるとか。今日も白井駅から私は来ましたが、今日は駅前の改札横のスペースが空いていました。あそこでよく野菜を売っていますよね。あそこで例えば、みんなでそういう展示とか体験をやるとかもできるかもしれません。

アプリの開発を20万でやるのは大変なので、パネルとか作るとか、そういう体験の防災グッズを背負ってみようとか、そういうものをみんなで考えて、あそこでやることは、すごくつながりを感じられていいかなと思います。そういうのを皆さんもし思いついたものがあれば。

○●●委員 一応今、私も大学に所属しています。3つのポイントがありましたね。協働活動が学生にとって学びとなるか、教員と地域の触れ合いにつながるか、その活動が大学と地域の永続的なつながりに発展し得るのかどうかということです。それは、単年度の助成事業だとは思いますが、私は3番目がすごく大事だと思っています。継続性という点では、こういった事業は、1年やって、はい終了というふうになりがちですし、確かに学生たちは卒業してしまうので、人材も入れ替わるということにはなりますので、難しいところがあります。しかし、大学という機関は、現状の国内の状況だと、大体20歳前後の学生さんたちが常にそこにいると。そういう機関なのです。

ですから、まずは、今回1年間の取組をただ成功させるというのが大前提なのですから、学生たちが教員の皆さん方と、特に交流と学習を深めて、長期でどんな形で継

続的な取組をしていくかとか、どういうふうに引き継ぎながらできる仕組みを発展させていくかとか、そういったことを検討していくということも入れ込んでいくといいかなと思うのです。

先ほど委員長もおっしゃられていたように、こうした事業は、学生、若者たちがチャレンジしたいと思っていることを調べる絶好の機会ですし、大学の教員がどんな志向性を持っていて、どんなチャレンジを地域としたいと思っているのかということについても、身近に聞き出せるチャンスでもあると思います。

取組の申請書を見ていないので何とも言えないですが、申請の中身はもちろんきちんとやりつつ、3番目に挙げている継続性のところを照らすと、その取組を発展させてもいいし、類似の形で別のところに展開してもいいのだと思いますが、ここが大事かと思っています。社会連携推進課という部署があるみたいですが、そこにつながるような形で、事業に取組みながら、継続的に関係を発展していくようなところを見据えた知見も集めていく、そんなようなところを含んだ形で活動を進めていけると、有益だと思うのです。

おそらくそういった知見が、先ほどのまち協の課題のところともつながっていくのだと思うのです。そのようなことを検討されるといいのではないかという所感です。

○委員長 ありがとうございます。何かありますか。ほかの方はどうですか。

どうぞ。

○●●委員 ちょっと聞きたいのですけれども、白井と印西と鎌ヶ谷、学生さんがここから通っているというような情報はあるのでしょうか。

○事務局 具体的な地域に住んでいる大学生の情報までは、きちんと掴めていないです。今までボランティアに来てくれた学生さんたちは、市川とか船橋とか八千代とか、残念ながら白井市はいなかったのですけれども、多分いないことはないと思うのです。

○委員長 もちろん白井とか、在住であれば一番いいと思いますが、多分、今回の趣旨としては、別に在住には限らずということですよ。キャラバンをやる大学生さん自体は、例えば市原市に住んでいても、佐倉市に住んでいても、一応いいわけですよ。

○事務局 そうですね。在住の白井、印西、鎌ヶ谷に住んでいなくても、一緒に地域の人たちを、子供たちと一緒に活動してくれるという意味で、大学生たちが参加してくればというふうに思っています。

○委員長 私もいっぱい聞いて恐縮ですけれども、大学との絡みで言うと、さっきのまち協の議論でも、最近、関係人口とか交流人口、定住人口とかいろいろな言葉があります。例えば、このまち協って、認可地縁団体になったりしないですよ。あくまで任意団体ということで言えば、ある意味、入会資格というのは、メンバーの資格というのは、おおらかに設定もできるわけではないですか。

白井には実家があるけれども、市原市に住んでいるという、例えば私がそういう設定だったとして、市原市の地元でも多少、地域活動をやっているけれども、親父、おふく

ろが住んでいる白井のまち協というのが立ち上がったのだなと。私も、それこそさっき言った子育てが終わった、時間を持て余している設定だったとして、白井のまち協をお手伝いしてみようかなと思ったとするじゃないですか。そういう門戸をとというか、オープンマインドで広げていただければ、多分、白井のニュータウンもそれぐらいの世代に入っていますよね、多分。高齢化されていれば、息子さん、娘さんが白井に住んでなくて、どこか別のところに住んでいるとか。

東京だと地域活動ってほとんどないから、地域活動をしたいとなると、むしろ実家で、もしかしたら、まだ中学の同級生が住んでいたりとかするかもしれない。だから、あまり狭めて考えないで、住んでいる人たちだけで考えてしまうと、地域の課題解決は難しいことが多いので、もうちょっと関係人口論とかを紐解くと、先ほど出てきた在住、在学、在勤、データセンターもできれば、そこで働く人も出てくるかもしれないし、さらに実家が白井にある方とかも含めたら、結構もっと広がるかなと思いました。というようなお話の後に何か。

どうぞ。

○●●委員 真面目な話の後で恐縮なのですが、まず、この三つの市の「何と呼ぶの」みたいなのを公募で選ぶとか。若者防災キャラバンで、今はたらく細胞みたいなちょっとしたショートムービー的なものができるのと、若者が食いつくかなみたいな、そんな気がしました。

以上でございます。

○委員長 ぜひ。私はKISかなと思いました。鎌ケ谷、印西、白井で。別になくても良いですが、あったほうがいいし、それぞれの市に一応、市民活動支援組織があるのだから、センターも。3市の枠組み、これをきっかけに3市で、例えば同日に駅前募金活動をするとか、啓発活動をするとか、いろいろ連携できる余地はあると思います。これ、いいきっかけじゃないですか。素晴らしいきっかけをつくれたと思うので、ぜひ、これをうまくやっていただきたいなと思いました。

ほかにいかがですか。大丈夫ですか。

今日の話をぜひ参考にさせていただいて、あと、くどいですが、せっかく出た意見を、ユースセンターをつくれとまでは言いませんが、空き店舗活用とかでもいいので、何かの形にできないかなと思います。あと、最近のトレンドとしては、白井高校で空き教室とかがあれば、逆にNPOは、神奈川県とかでパノラマさんというところが始めて、普及し始めているのです。校内カフェといって、校内にNPOが出張って行って、そこで居場所づくりをするみたいなプロジェクトとかもあったりします。もし白井のNPOさんが校内にアクセスできるのであれば、空き教室とかを借りて、そういうたまり場的なカフェみたいなことをやれると面白いのではと思います。

そこは今、大分ハードルが高いですが、先ほど言ったとおり、来て来てと言うだけで

はなくて、こちら側も何かギバーの精神で、お互いハッピーになればいいかなと思いますということです。

(4) 今後の委員会予定について[公開]

(事務局説明)

○質疑なし